

清水幾太郎の著書2点復刊

よみがえる知識人の人生観

60年安保闘争から50年の今年、安保反対派の論客だった社会学者の清水幾太郎（1907～88年）の著書が相次いで復刊された。『日本人の知性8 清水幾太郎』（学

り、全面講和を主張してサンフランシスコ講和に反対した「講和会議に寄す」や、米軍試射場反対運動を論じた「内灘」も読むことができる。

術出版会、5040円）と『私の人生論9 清水幾太郎』（日本ブックス、3990円）だ。後年、保守派に転じて日本核武装論を唱えるなど、主張のふれを取り上げられがちな清水だが、両作品からは誠実な知識人の姿が浮かび上がってくる。

『日本人の知性』は、58年刊の『現代知性全集 清水幾太郎集』のタイトルを改めて復刊したもの。36年から58年までに書いた文章を収めている。戦後処理をめぐ

『私の人生論』は、66年刊の『現代人生論全集 清水幾太郎集』のタイトルを改めて復刊したもの。信念、善、美など抽象的に人生の問題を語った文章と、自伝的なエッセーなどを合わせている。中学1年のとき、ドイツ語版『ファウスト』を買ったこと▽高校への通学途中で、後の妻と出会ったこと▽東京大在学中に学生運動にかかわったこと——など、戦前の成長過程もつづられており、読み応えがある。